



「子育てについて」学生の関心のある項目

みどりの家診療所院長 三宅捷太

私は医系大学の数か所で講師をさせていただいています。いずれも非常勤で講義の内容は全く同じで、母子保健・小児医療・児童福祉・障害福祉・学校保健について、データを中心に現代の課題の概説を担当しています。対象は毎年1年生か2年生で医師・看護師・理学療法士・作業療法士の卵たちで、総勢300人近くなります。講義に先立ち、受精から出産までのビデオ、新生児から1歳までの1日1秒1枚の写真、1歳から10歳までのスナップ写真の連写と、思春期の二次性徴についてビデオで見せ、その後パワーポイントで私が話し、全体で150分程度です。種々工夫しているのと子育てに関心があるためか眠る子はそれほどなく、真面目に聴講していました。講義後に出欠を兼ねた300-500字の感想文を提出させ、その概要と私の感想をまとめてみました。愕然としたのは、学生の1-2割程度しか乳児を抱いた経験がなく、小さい子どもとの距離が遠いことでした。

学生の反応は、受精に至るまでの精子の動きや胎芽期・胎児期の形態変化や出産の流れの初めて見る動画に感動し、子どもの成長に伴う顔の表情や手足の動きの変化にかわいいと声を上げ、二次性徴で、腋毛のある意味、乳房が腹から胸に移動し、ペニスが大きくなったのは、相手を喜ばず進化なのだと思って瞠目していました。チンパンジーの愛着形成が人間以上なのに驚愕し、子育ての基本を読み取れると知ったようでした。縄文時代には丁寧に埋葬された子どもの墓があり、重症心身障害者と思われる大人の骨があったこと、母子健康手帳や乳幼児健診が日本で初めて開始されたことなど、日本人のやさしさに触れて感動していました。また現代の子育てシステムが地域できめ細かく実施されているが、その情報が本当に親たちに知識としてだけでなく行動を引き起こせるように知られているのだろうかという疑問を投げかけていました。虐待への関心は極めて高いものの他人事にしか感じておらず、単に親が悪いと思っていたようでした。その対応には親を追い込んでいる環境の調整が必要で、自分もやってしまう可能性があるのと、若干子育ての恐怖を感じている意見も散見されました。スマホに夢中になって、赤ちゃんの顔を見て授乳することがおろそかになっているのが、コミュニケーションの下手な子の大きな原因となっていると分かってくれたようでした。

さて、私は若い世代に話しかけることができ幸せでしたが、学生たちに果たして子育てを楽しいものと感じ、地域に子育て支援者が多くいることを知って、次世代をはぐくむ気持ちを鼓舞することが出来たか不安でした。私たちが先導役として身近な青年に接するとともに、また社会を構成する人間として何を今すべきかを考えなくてはならないと責任を感じております。

